災害時要援護者 支え合いマップ作成マニュアル

“マップづくり”でわがまちの防災対策！

安否確認のネットワークづくり
安否確認の手順確認
情報の把握
災害時要援護者支援ネットワークづくり（支え合いマップづくり）
防災マップづくり
防災啓発活動
安否確認・避難支援登録シートづくり

災害の発生及び拡大を防止するためには、自分たちの住んでいる地域が災害に対してどのような弱点があるのか、具体的に把握しておくことが大切です。

そのためには、組単位で子どもやお年寄りの方、障がいのある方など含めたみんなが参加し、自分たちのまちを実際に調べて、地震・風水害・大規模火災などの発生を想定し、被災するとどのような状況になるかを予測しておく必要があります。

大規模災害時には、地域住民の共助が大切な命や財産を守ることに繋がります。平時から、組単位で「安否確認・避難支援登録シート」の活用や支え合いマップを作成し、情報を共有しておきましょう。また、「安否確認・避難支援登録シート」で災害時に支援を希望した方には、組長や民生委員児童委員らが家庭訪問をして詳細な聞き取りを行い、日頃から要援護者と関わりがあって本人が手助けを望む人を複数決め、双方の同意を得て“支援者”として登録するなど、住民によるネットワークづくりをすすめましょう。

伊賀市社会福祉協議会

取り組んでいます!! 柘植地域まちづくり協議会

災害時安否確認マニュアルに基づいた、住民による見守りネットワークづくり

柘植地域まちづくり協議会では、「災害時安否確認マニュアル」を作成し、災害時に地域住民だけで３～４日は対応するしくみづくりが必要と考え、要援護者への避難支援を中心に地域住民の避難も包括しています。その内容は、

① 安否確認のネットワークづくり
② 情報の把握
③ 安否確認・避難支援登録シート作成
④ 防災マップづくり
⑤ 安否確認の手順
⑥ 防災啓発活動
⑦ 災害時要援護者支援ネットワークづくり（支え合いマップづくり）

からなります。

安否確認は、区（自治会）を基に一番小さい単位である組（班）を基本とし、組では安否確認リーダー（組長）及びリーダーの補佐役として、常時組に在住する複数のサブリーダーを決めています。

また、災害時、援護を必要とする人や一人ひとりの情報を把握するため、「安否確認･避難支援登録シート」を各世帯に配布、家族構成、日中の連絡先、障がいの有無や支援が必要か否か、必要ならばその内容、防災上役立つ資格、技能等を書き込んでもらっています。

いずれも個人情報なので、災害時に情報を提供することを条件に同意を取って、各世帯２部作成、毎年度末に更新、旧シートは返却することにし、区長､組長が保管､プライバシーの保護責任を持つことになります。

また、災害時に支援を希望した人たちには、組長、民生委員児童委員らが家庭訪問をして、さらに詳細な聞き取りを行い、その上で日頃から要援護者とかかわりがあり、本人が手助けを望む人を複数決め、双方の同意を得て、“支援者”として登録します。

安否確認リーダー（組長）、サブリーダーは、情報の共有を図るため、日頃より要援護者及び家族との交流を深め、“向こう３軒両隣”をベースに支援者と共にコミュニティーの構築を行っています。こうして集めた要援護者の情報を基に、支援者との関係が分かる「支え合いマップ」づくりや地域住民の参加のもと、実際にまち歩きを行い、防災の視点からの「防災マップ」づくりを区単位で行っています。

これらは、個人情報を蓄積したものとなるため、マップは区長らが限定して保管、プライバシーの保護に努めるなどの配慮をしています。

要援護者聞き取り用 訪問時記入用紙

◆訪問日・住所・電話・氏名・訪問者・対応者

◆確認事項

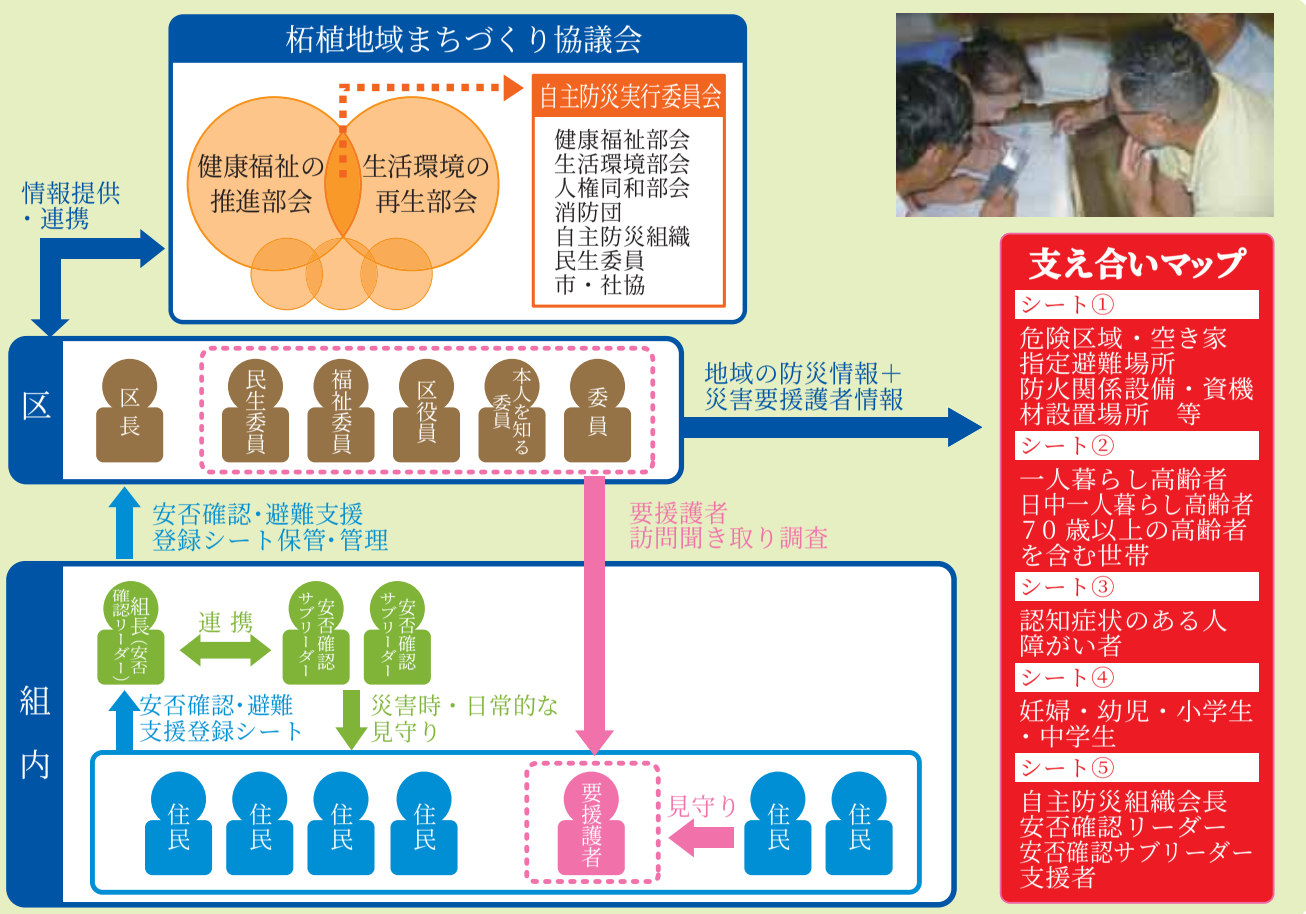
❶ 支援者の選任
①日頃、お付き合いのある方はいますか？（どんな関係か？）
②よく訪ねてくる人はいますか？
③日頃、あいさつを交わす近所の方はいますか？
④よく行くお店、家はありますか？
⑤近くに保健、福祉のプロはいますか？（看護師、ヘルパー等）
⑥趣味の仲間等はいますか？

❷ 防災面のチェック
①日中過ごす場所は？　/　夜寝る部屋は？
②部屋においてある家具の状況は？（転倒防止策は？）ぐ障がい物はないか？）
④その他に、家の中の危険場所はありませんか？
⑤一次避難場所は、決めていますか？（最寄の避難所、一時立寄所、指定避難場所）

❸ 現在利用している福祉サービス（種類、曜日、事業者等）

❹ 困りごと・希望すること

❺ 家の中の略図・その他、所感



支え合いマップ

シート①
危険区域・空き家
指定避難場所
防火関係設備・資機材設置場所　等

シート②
一人暮らし高齢者
日中一人暮らし高齢者
70歳以上の高齢者を含む世帯

シート③
認知症状のある人
障がい者

シート④
妊婦・幼児・小学生・中学生

シート⑤
自主防災組織会長
安否確認リーダー
安否確認サブリーダー
支援者

□ このパンフレットは、平成19年度 三重県社会福祉協議会 地域福祉活動推進事業により作成しました。

シート1 防災マップづくり

組（班）単位でまち歩きを行い、大地震や風水害でどんなことが起こるのかを想像しながらそれぞれの防災マップを作成し、防災のための資源情報をすべての住民で共有しておきましょう。

防災区分と色シールを指定し、地図上に記入した防災マップを基にして、自主防災組織（区）の防災マップを作成しましょう。

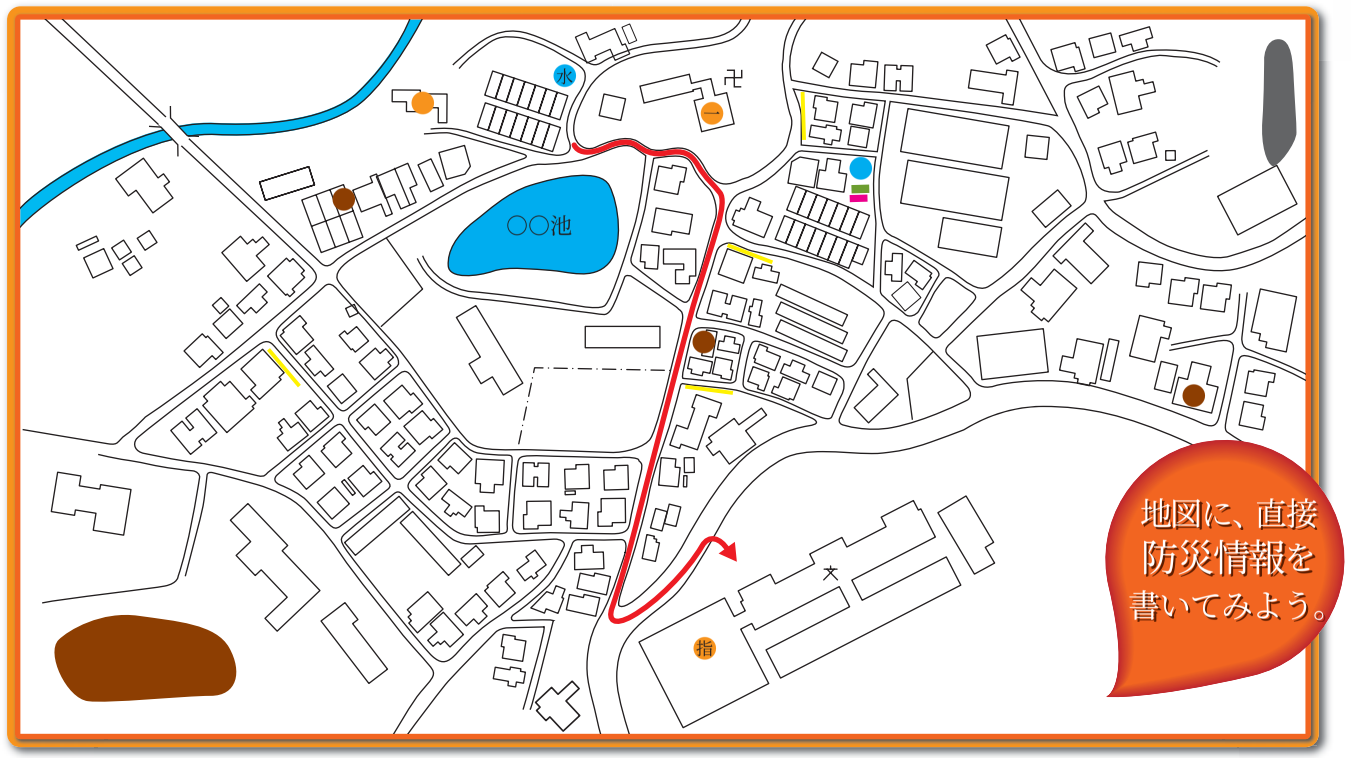
●防災情報（例）　シート1

◆避難
- 最寄り集合場所 ・・・・・・・・・ ●
- 一時立寄り所 ・・・・・・・・・ 一
- 指定避難所（地図内にある場所） 指
- 避難経路 ・・・・・・・・・・・ ▬

◆危険区域
- 土石流危険渓流 ・・・・・・・ ▬
- 急傾斜地崩壊危険箇所 ・・・・ ▬
- ブロック塀箇所 ・・・・・・・ ▬

◆防災関係設備・資機材設置箇所
- 消火栓 ・・・・・・・・・・・・ ●
- 防火水槽 ・・・・・・・・・・・ 水
- 消防ポンプ庫 ・・・・・・・・・ ▬
- 飲料用井戸水源 ・・・・・・・・ ▬
- 防災資機材（テント・担架等）・・・ ▬
- 不在住宅（空き家） ・・・・・・ ●

❶ 組（班）単位で安否確認を行う一時集合場所を決定
❷ 組（班）単位で安否確認後向かう指定避難場所への経路確認
❸ 地域での危険な箇所や問題のある場所
（過去の災害を把握し実際に危険箇所を確認）
❹ 防災施設や安全な場所
◎公園、広場、消防、消火栓、貯水池、防火倉庫
◎防災活動に役立つ資源
（病院、診療所、食料品店、河川等）
◎最寄りの避難所・一時立寄所・指定避難所



シート2・3・4・5 支え合いマップづくり

要援護者情報把握のためのポイント！

要援護者区分と色シールを指定し、防災マップを基にして、透明シートを重ね合わせた地図上に要援護者情報等を貼付し、自主防災組織（区）の支え合いマップ作成しましょう。

●要援護者となりうる人（例）

シート2
- 65歳以上一人暮らし高齢者（昼間一人含む）・・・ ●
- 70歳以上の高齢者を含む世帯 ・・ ●
- 寝たきり高齢者 ・・・・・・・・・・ ●

シート3
- 身体障がい者
  - 肢体不自由者 ・・・・・・・・・ 一
  - 視覚障がい者 ・・・・・・・・・ 視
  - 聴覚障がい者 ・・・・・・・・・ 聴
- 知的障がい者 ・・・・・・・・・・ 知
- 精神障がい者 ・・・・・・・・・・ 精
- 認知症状のある人 ・・・・・・・・ ●
- 上記に準ずる状態にある難病患者など ・・ 準

シート4
- 乳幼児・妊婦 ・・・・・・・・・・ ●
- 小学生 ・・・・・・・・・・・・・ 小
- 中学生 ・・・・・・・・・・・・・ 中

●支援者（例）　シート5
- 自主防災組織会長（区長） ・・・・ ●
- 安否確認リーダー ・・・・・・・・ リ
- 安否確認サブリーダー ・・・・・・ サ
- 支援者 ・・・・・・・・・・・・・ シ

近隣住民、組（区）などの自主防災組織、民生・児童委員、福祉協力員、ボランティア　など

災害時や訓練時に使用する個人情報として、各個人が情報提供する「安否確認・避難支援登録シート」を活用し、その情報をもとに支え合いマップを作成しましょう。また、災害時に情報を提供することを条件に、同意を取っておきましょう。

「安否確認・避難支援登録シート」の内容（例）

◆世帯状況
代表者名（世帯主）住所／電話番号／同居家族名／続柄／性別／生年月日／日中の連絡先　など

◆支援状況
支援の有無／支援が必要な内容（必要な保健・医療・福祉サービスの内容、避難支援の内容（車椅子・歩行介助）など／要援護者の避難支援者名（自主防災組織・班（組）メンバーなど）※避難支援者は複数名で記入（複数の避難支援者を確保）

●要援護者の把握（例）

ひとり暮らし高齢者（昼間ひとり暮らし高齢者）などで、日常的に近隣住民などの支援が必要な人	狭義の要援護者（現状においても概ね民生・児童委員が支援している人）▶災害時と日常の支援が必要
日常は家族やサービス利用により介護を受けている人	広義の要援護者（現状においては対象外）▶緊急時や災害時に支援が必要
日常的に自立しており、家族などの介護により援護を望まない人	対象外
情報の公開を望まない人	
施設の入所者	